

京都岩倉の火祭

五代 晋一

私の住んでいる地域の祭りについてご紹介したいと思います。
 京都市左京区の岩倉では、秋の紅葉シーズン、門跡寺院の実相院や岩倉具視幽棲旧宅などは多くの観光客で賑わいますが、その奥にひっそりと石座(いわくら)神社が社を構えています。
 創建について詳細は不明ですが、平安時代の『日本三代実録』(880)に記されており、少なくともそれ以前に石座神社(現在は御旅所)は存在していたとみられています。



平安時代、971年に現在の岩倉上蔵町の地へ移されましたが、室町時代の1547年に兵火で焼失しまい1554年に再建されました。幕末、岩倉に隠棲していた岩倉具視もしばしば参詣していたそうです。

その神社で行われているのが『岩倉の火祭』で、毎年10月22日に近い土曜日に行われ、京都市登録無形民俗文化財の指定を受けています。以前は、時代祭のあと鞍馬の火祭が終わった深夜、翌午前3時に行われており、京都の祭り好きは火祭のハシゴを楽しんだそうです。

『岩倉の火祭』は氏子6町で執り行われ、それぞれの町が役目を担っています。大松明作りには2町のみが携わります。材は樫やツツジの柴で作られ、外側を竹で覆います。燃えだすと竹がポンポン爆ぜ大きな音が祭りを盛り上げます。御幣(ごへい)、御供(ごくう)、一言主神社(子供神輿)巡行を担当する町があり、私の住んでいる上蔵町(あぐらちょう)は神輿の飾り付けや神輿絡み(神輿と担ぐための長い台棒を縄で取り付ける役)を担当します。

祭礼当日は、各町その年の当家(とうや)宅へ集まり、そこから小松明・鉾・御供を持って石座神社に集まり、献饌・神事の後に境内の宮座前に置かれた1対の大松明に点火されます。

なぜそのような大松明が作られるようになったかといいますと、昔、岩倉に雄と雌の大蛇が住んでいて住民に大きな危害を加えていました。村人が神社へ祈願すると神前の灯火で退治せよとお告げがあり、松明に神火を灯すともう二度と大蛇は現れなかったという伝えがあるからです。

その大蛇に見立てた大松明は社の左右、宮座の前に据えられ東が雄、西が雌の大蛇とされています。その背に一直線に荒縄を束ねた30センチ程の縄の結び目があり、結び目の数は12本と決められており閏年には13本となります。

上蔵町の役割は前記のように神輿絡みです。昔はぶっつけ本番で絡みをやられていたそうですが、男結びやシャチ結びなど特殊な結び方があるため昨今では事前に練習を重ねています。

しかし当日は宮座で酒盛りをした後で本番突入となり、酔いと緊張でこごす上に、周りにいる長老たちから「まだやっているのか」「早くしろ」などとヤジも入りますので、それぞれの担当箇所では皆汗だくで奮闘しています。

今年から絡みの責任者になったため、どの箇所でも失敗しても時間がかかっても叱責を受けますので頑張ってもらいましたが、反省点も多々ありました。

また、若衆代表の幸領(神輿舁きを取り仕切る)という役割を仰せつかり、さらに氏子6町の幸領を代表する幸領頭という大役までいただきました。自分の掛け声で神輿を操り運行させていく醍醐味と難しさは経験した者にしか分からないことですが、非常に良い経験となりました。

祭りの行程を簡単に説明しますと祭りは「朝神事」と「昼神事」の2回に分けて行われます。

朝神事は、夜中の2時頃に各町が神社に集り3時に大松明に点火、4時から神輿絡みを行い、松明の火が燃え尽きる夜明け前(5時半頃)に神輿は出発、神輿御旅所へ6時半ごろに到着神輿絡みを解き、7時頃から神事を行い終了です。

昼神事は、御旅所で正午に神輿絡みを行い、各町が御旅所へ集まり午後1時半に神輿が出發、3時頃に神社へ神輿を迎え神輿絡みを解き神事に続き、4時頃に踊り手の女性8人による岩倉踊りが奉納され終了です。

さて、氏子の奉賛会員は年功序列で当役という役が回ってくるのですが、その家が鉾の組み上げや御供を飾ったり祭りへ出発する時の集合場所となります。その時には敷地内に入らせていただきますので、その住居や庭の設えを見学ができることは祭りとは別の楽しみとなります。土地柄、昔からの農家の作りが多く、基本的には一軒間口の入り口で土間が広がり右側に3畳ほどの接客間、左側には住居部分の木戸があり正面の格子戸の向こうは土間の続くおくどさんがある台所となっています。

客間の襖や掛け軸、置物などはかなりの歴史を窺わせる素晴らしいものも多く見られますし、外部も屋根瓦に凝っている家もあれば庭や植木が素晴らしかったり、蔵の作りの珍しい家があったりと、普段は見られないだけになかなか見応えもあり、その家の趣向を知る良い機会でもありません。

客間の襖や掛け軸、置物などはかなりの歴史を窺わせる素晴らしいものも多く見られますし、外部も屋根瓦に凝っている家もあれば庭や植木が素晴らしかったり、蔵の作りの珍しい家があったりと、普段は見られないだけになかなか見応えもあり、その家の趣向を知る良い機会でもありません。



中央が五代さん

今後の予定

- ★第6回MANA-BOZE 2月27日(金)
コルクボードアレンジ/於・コラムデザインセンター
- ★平成27年度OIS総会 4月24日(金)
於・難波市民学習センター第2研修室

OIS

大阪府インテリア設計士協会
 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
 TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553
 URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
 blog <http://oisblog.exblog.jp>
 E-mail ois@jp-interior.or.jp

発行人：河野
 編集人：田原(第3事業部長)
 スタッフ：石渡・今井・加茂・五代
 瀬部・福田・山田
 河野(第1事業部長)
 事務局：岡崎・奥田

乙未



No.97



未年年頭に当たって

会長 河野 洋二

私ごとですが、干支五巡の還暦を迎え気持ちも新たにしました。
 当協会の発足も昭和30年、大阪室内設計技術家協会として同じ年を重ねています。そんな節目に会長を務めさせていただいているのは、OISに大きな縁を感じます。
 今年はまた、阪神淡路大震災から20年目でもあり

ます。色々節目が重なる年、OISも青年部の頑張りに応じて、より活動的な一年でありたいと願います。理事一人一人が昨年以上に行動を起こし、一般会員の皆さんも積極的に事業に参加していただき、協会のさらなる若返りができればと願っています。
 今年も宜しくお願い致します。

2015 初詣と新年会

1月4日、今年初めの日曜日にお初天神と露天神社に初詣。まだ三が日の余韻なのか大変な混雑で、警備員が出てお参りする人の列を整理しているのを見て驚きました。拝殿でOISの発展と会員皆様の活躍と健康を祈念するお祓い、河野会長の玉串奉納、お神酒を頂き拝殿前で記念撮影をしました。その後、近くの「がんこ 曾根崎本店」で新年会がありました。今年は多くの人が出席



自己紹介する新会員の猪木さん

され賑やかでした。まずはビールで乾杯、新入会員の紹介、歓談の後、恒例のゲームは「川柳」づくりでした。配られた別々の用紙に中の句と下の句を各自が書き、集めて混ぜて合せ再び配り、上の句に「私は」を付けて各自が詠むという趣向です。たまたまとまった川柳もあれば、全体がうまくマッチせず妙な句もあり、詠まれる度に大笑いに。笑えて楽しい新年会を毎年企画してくださる事務局に感謝です。

今年の経済に目を向ければ、株式相場では「未辛抱」、つまり我慢の年だそうですが、去年の格言もはずれ株相場は上がり、今年もはずれ景気は上向くのではとの予想が新聞記事にありました。
 インテリア業界全体が飛躍し、インテリア設計士の皆様が活躍の年とな

ることを期待します。眉間の皺より目尻に皺が刻まれんことを望むばかりです。“笑う門に福来たる”、私もそんな年にしたいと思えます。
 (記・寺田 勉)



寺田さん



拝殿前で記念撮影



事遊展=12月5日(金)~7日(日)
難波市民学習センター(OCAT・4階)



「事遊展」&「忘年会」に参加して

忘年会=12月5日(金)朝陽閣(OCAT・5階)



昨年暮れに行われた事遊展および忘年会に参加してくれた羽衣国際大学の学生諸君から寄せてもらった感想等を、ほぼ原文のまま報告します。



【伊賀 千夏さん】

忘年会に参加させて頂き、ありがとうございます。今まであまり参加したことがなかったので緊張しましたが、色々な先輩方や他の学校の学生の方と様々なお話ができて、とても楽しく、貴重な時間を過ごすことができました。

四字熟語のクイズがあり、お互いで答え合わせをするなど、色々話すきっかけにもなりました。景品もいくつか用意されており、とても楽しい時間でした。

今回は事遊展を見に行くことが出来ませんでした。様々な作品や写真が展示されていたと聞いたので、次回はぜひ見に行きたいと思います。

学生ながらこのような会に参加させて頂き、ありがとうございました。



【橘 美千子さん】

事遊展では、一昨年に引き続き衣装を展示させて頂いたのですが、実際の会場へは今回初めて伺いました。陶芸や絵画、写真など様々なジャンルの作品が拝見でき、とてもいい刺激になりました。作品を通じて皆さんの個性などが知ることができ、会話が広がるきっかけにもなったと思います。特に、今回のテーマの「ピフォーアフター」の写真は、見ていてそれそれの方の個性が溢れていて、とても面白かったです。

その後の忘年会は、老若男女が集まり普段お話できない方々とお話できる良い機会でした。四字熟語のゲームは難しかったのですが、皆であれこれ考えるのも楽しかったです。今回初めて参加させて頂いたのですが、皆さん親切で、終始リラックスして楽しむことができました。



【谷口 史子さん】

事遊展のみなさんの作品がひとつひとつ興味深く、全部キラキラして見えました。みなさんが多種多様な趣味を持っておられて、人生を楽しんでおられるんだろうなあと感じました。

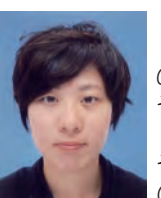
忘年会は今回初めて参加させていただいたので、とても緊張していましたが、みなさん気さくに優しく声を掛けてくださったので、とても楽しく、また参加したいと思いました。ありがとうございました。



【宮口 奈菜美さん】

事遊展と忘年会に参加させて頂き、いろいろな方々とお話できてとてもよかったと思っています。事遊展では様々な作品があって面白く、参考になりましたし、私の作った服も展示していただき非常に貴重な体験をさせていただきました。忘年会も和やかな雰囲気、はじめての参加でもとても楽しむことができました。これからもまた機会があればどんどん参加していきたいと思いました。

忘年会も和やかな雰囲気、はじめての参加でもとても楽しむことができました。これからもまた機会があればどんどん参加していきたいと思いました。



【森本 真以さん】

忘年会、私は2回目の参加だったのですが、多くの人が声をかけて下さり、とても楽しめました。その中でも、特に、広畑さんと五代さんがたくさん話しかけてくださったのがとても嬉しかったです。そして、飲み会の中で四字熟語ゲームがあり、周りの人達と「この四字熟語、なんだろう?」などと話したりするのが楽しく、また、景品も用意して下さっていたので、とても盛り上がりました。



第1回「TABE-YOZE」の印象

昨年の11月7日に行われました青年部の新企画、「TABE-YOZE」の第一回目に参加させていただきました。OISの催しへの参加はとても久しぶりにも関わらず、そしてまた、中途参加・中座という、主催者側にとっては迷惑な客なのに温かく迎え入れてくださいました。それだけでもと

良いお店、というのが最初の印象でした。店内はナチュラルテイストで、暖かい感じです。ご主人もとても良い人、さすが矢野さんのご主人、すべてがアットホームな雰囲気のあるお店です。出されたお料理は、どれも手が込んでいて美味しく、もっといただきたいのに、すぐに一

杯になってしまったお腹が恨めしく思うほどでした。ランチもされているとのこと、お近くの方を羨ましく思い、時間を見つけて伺いたいと思うのでした。

さて今回の会場は、青年部で理事の矢野さんのご主人が経営されているランチの「ピストロ Bon'app」、西区新町界隈にあるこのじままりて感じの



栗山さん

お店の雰囲気やお料理のレベルにも増して、久しぶりにもかかわらず快く受け入れてくださった皆様、意外なところで共通点を見つけた瀬部さん、相変わらず好奇心キラキラな宮後顧問、ハイ・テンションで参加者を引っ張っておられた広畑青年部長、何年振りか分からないのにお変わりのない石渡さん、とっても幸せな報告をいただいた鷲岳さん…。

お話できなかった方もあり残念でしたが、ひとの話の聞いたり、積もる話ができる良い機会、ぜひ今後とも続けていってほしい企画だと思いました。(記・栗山 保)

第29回 みんなで楽しむ

陶芸教室 & アウトドアパーティー



熱心な作陶風景

10月26日に丹波立杭「丹文窯」で行われた、恒例の陶芸&アウトドアパーティーは好天に恵まれ、大変気持ちの良い一日となった。

計画的に作品のアイデアを考えてきた人、ぶっつけ本番の人、子供さんの参加もあって、人数の割にはにぎやかで、作品もバラエティーに富んでいたように思う。

今年定番の釉薬に加え、黒豆の枝葉を焼いた趣のある灰釉があり、限定版とのことで、この言葉に弱い人はほとんどこの色にしたようである。アウトドアパーティーでは、A氏

の淡路島産タマネギと新鮮なアジのマリネの差し入れや、O氏が腕を振った素材の味を生かした料理をアテに、H氏持参の美酒で、車で来られたK氏に気を遣いながらも大いに盛り上がった。

帰路は刈り干しされた稲藁の香りの中を、土産に黒豆など求めながら、のどかな農道を辿って駅に向かった。

さて、A氏、O氏、H氏、K氏とは誰でしょう? (記・小長谷 米)



陶芸教室でつくられた作品は、すべて「事遊展」で展示されました。

篆刻にハマリそう

年末恒例の「篆刻教室」が12月1日、コラムデザインセンターの教室で行われ、昨年に続き今年も参加しました。

宮後先生のわかりやすい説明と指導のもと、篆刻用印刀を握ると「いよいよ年末だ



な〜、今年も、この季節が!」と、しみじみ感じます。来年の干支の乙未が用意されていて、これで年賀状はバッチリです!

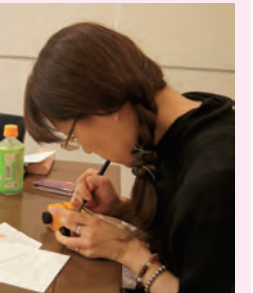
篆刻教室に初めて参加させて頂いた時は、石を彫る感触に緊張して加減がわからず、一文字彫るのにすごく時間がかかった上、全然できなくて、先生にずいぶん助けられました。もちろん、今も宮後先生なしには困難極まりないのですが、何度か参加させて頂いているおかげか、ほんの少しですが要領を覚えたようで、今回は字選びから挑戦することもできました!

教えてもらった文字の成立や法則を頭にいれながら字を決め、字体を選びます。それだけでも面白く、ハマリそう感じます。今回選んだ字は絵のような文字で、それを左右反対の鏡文字にして石に書きます。一度彫って先生に見てもらったら、「字以外

の余白が多くて寂しい」とのアドバイスが!そう、忘れていたのです。以前、「字をどのように書き入れるかも、デザインセンスの表れ」と教えてもらったのを。なので、字の意味や特長に問題がない範囲で、絵を描くような楽しみを味わいながら、今年の篆刻も無事終わりました。また、来年も続けようと思っています。(記・石渡 由華)



石渡さんの作品「乙未」(きのとひつじ)



京都府インテリア設計士協会 KIDS企画

「酒の文化館」と「陶磁器やきもの」

11月22日、KIS(京都府インテリア設計士協会)のバスツアーが行われました。目的地は愛知県半田市と常滑です。

一行を乗せたバスはJR京都駅から愛知県へ向け高速道をひた走り、最初の見学スポットである半田市に到着、「酒の文化館」へ。江戸時代から「國盛」の名称で日本酒造りを始めた中埜酒造が文化遺産の継承の意味も込め、当時の建物を活用しながら創設された、いわば記念館ともいえる文化館です。機械の無い時代の酒造りの道具などが展示されており、楽しみの試飲タイムでは、同社で造られている各種銘柄を少しずつ味見させていただきました。

ツアーに参加していた京都の学生と思われる若い人たちが、この江戸時代に建築された建物の構造、材木などを熱心に観察されている姿が印象的でした。

昼食を挟み再びバスで次の見学地である常滑へ出発。道中、「旧・カプトビール」の明治時代建築の赤レンガ建物が在るのですが、運悪く修繕改修中で建物全体が仮囲いに覆われ残念ながら通過してしまいました。

バスは常滑に到着し、「陶磁器会館」からスタートする散策道コースへと歩き出しました。いわゆる「土管」を古くから製作焼かれていた

町で、レンガ積み煙突がレトロチックなムードを醸し出しています。土管には熱や電流を絶縁する性質があるため、ハイテクが進んだ現在でも設備ケーブルの保護管に使われているそうです。

散策道は結構な坂道でよい運動にもなりましたが、大手メーカーINAXも当地で古くから磁器質タイルを製造しているのを思い出していました。

愛知県は、子供の頃に一度名古屋を訪れた記憶しかなく、今回のバスツアーは良い経験ができた貴重な一日でした。(記・朝日 勝彦)



酒の文化館



土管坂